

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 3月 18日

事業所名 障害児通所支援事業 ふらわーず

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	1		○学習(刺激除去が必要なお子さんなど)や活動によって、場所を1階・2階などに分けて行っている。また、所外活動が多い為、事業所のみで完結した支援をしていない。	
	2	職員の配置数は適切である	5				○職員の配置基準に乗っ取って運営しているが、コロナ禍の職員の急な休みに対応していくためには、ギリギリの状況。求人募集は、行っているが難しい状況。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		3	2		○建物の造り上、バリアフリーにすることが難しい。職員の対応で改善している。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	3	2		○ミーティングなどで、支援の振り返りをその都度、行って改善できるところは、やっている。	○業務の役割分担などがうまくできず、事務作業に追われ、PDCAサイクルを丁寧に行えずにいた。業務の簡素化(PDCAサイクルで話し合う時間を多く作る)が行えるように話し合っている最中。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5				○年度末の父母会にて評価表の説明、また、ご意見の合ったものに関しては、回答しながら、対応している。令和4年度は、避難場所が知りたいとのご意見があった為、年度初めに、避難場所などの一覧表を配布。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5				○事業所評価結果に関しては、父母会にて配布し、説明している。また、父母会后、自社のHPに掲載。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	1	1		○社労士の個人面談を実施するなど、業務改善のきっかけ作りを実践していた。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5				
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5				○利用しているお子さんのアセスメントを行ってはいるが、職員全体での周知が出来ていなかったため、勉強会を行う予定。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5			○事業所で準備しているアセスメントツールが教育関係の物の為、高学年で就労に向けて活動しているお子さんに関しては、就労に特化したアセスメントツールへ変更して実施中。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	1			○事業所職員内でのコミュニケーション不足が目立ち、立案者に偏りがある。マメにミーティングを行い、みんなで考える仕組みに変更。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5				

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
適切な 支援の 提供	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5			○お子さんの発達段階に応じたクラスを作り、支援がしっかり行える環境づくりをしている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	5				
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	1			○業務の課題(コミュニケーション不足やできる職員への偏りなど)の改善策として、チーム全体で意識して取り組んでいる段階。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	2		○支援終了後ではないが、翌日のミーティングにて、支援が適切であったかどうか、共有したり、アドバイスを受けて、次回の支援に生かしている。	○業務の課題(コミュニケーション不足やできる職員への偏りなど)の改善策として、チーム全体で意識して取り組んでいる段階。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4	1			○記録者に偏りがあり、今後は、全員で記録を意識しつつ、状況共有していければと思う。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5				
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	4				

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5				
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	5			○学校への送迎にて情報共有を行っている。また、利用者の下校時間に関しては、保護者からの情報提供と学校HPで調べてから行っている。また、トラブルがあった場合についても同様、学校への聞き取りと保護者確認を徹底している。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		1	1		○医療ケア児の受け入れは、行っていない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5				
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	4	1			
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	1			
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	3		○コロナ以前は、定期的に児童館を利用しての活動で、地域の子供たちとの交流はあった。また、近くの公園での活動の際、地域の子供たちも一緒に遊びながら交流することもある。	○コロナ禍で児童館などへは行けずにいたが、落ち着いたことに利用しようとする、児童館側より拒否があり、職員がついても「障害児は～」との理由で断られた。デイの存在を地域に発信していきながら、周知していただければと思う。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	3	1			○相談を立ち上げたことで、相談職員が町の協議会に参加するようになり、デイの職員にも情報共有できるようになった。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5				
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	4		1		○相談時に助言を行う、
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5				
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5				
32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	1			○グループLINEを作成。父母会も年に1回開催。	

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5			○いつでも苦情など困ったことなどあったら、連絡してくださいと伝えている為、何かあったら、保護者から連絡があり、しっかり保護者の声に耳を傾けていけるようにしている。	○保護者から納得のいかない苦情があった場合、内容・状況によっては、相談員などを含めた会議を行い、お互いに納得できる形で解決している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5				
	35	個人情報に十分注意している	5				○個人情報同意書を作成。HPに掲載する写真についても保護者+事業所で2部作成し、事業所・保護者で1部ずつ保管。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5				
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		2	3	○事業所のキャパが足りない為、地域の方を招待することは出来ないが、地域主催のイベントなどに活動で参加させていただき、その中で交流をしている。	

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の 対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3	2		○コロナ禍、感染者が出た場合は、迅速に対応できるように手紙を出して、事業所の状況を発信していた。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5			○年に2回の避難訓練実施(利用者と一緒に実践的な訓練を心掛けている)	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5				
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5				○身体拘束が必要児はなし。やむを得ず必要な場合の方法に関しては、職員に周知している。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	1			
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5				○ヒヤリハットノートはあるが、活用がうまくいっていない。ヒヤリハット事案がある場合は、その都度、ミーティングを行い、再発防止に努めている。